MEIJI UNIVERSITY

第2回　明治大学シェイクスピア生誕450年記念祭
第39回　明治大学人文科学研究所公開文化講座

シェイクスピアと日本

受講料
無料
（申込不要）

【開場 12:30】
2014年10月25日［土］ 13:00〜17:00

明治大学駿河台キャンパス　リバティタワー1階　リバティホール

第一部　近代日本とシェイクスピア

「翻案と翻訳の間―明治日本の異文化受容」
神山　彰（明治大学文学部教授）

「シェイクスピア・福田恆存・その翻訳」
福田　逸（明治大学商学部教授／演出家・翻訳家）

第二部　現代日本におけるシェイクスピア

「現代日本におけるシェイクスピア上演
―蜷川幸雄、あるいは日本人がシェイクスピアを上演するということ」
野田　学（明治大学文学部教授）

「私のシェイクスピア料理法」
青木　豪（劇作家・演出家／明治大学文学部兼任講師）

お問い合わせ　明治大学人文科学研究所　TEL:03-3296-4135　http://www.meiji.ac.jp/jinbun/

第2回 明治大学シェイクスピア生誕450年記念祭
第39回 明治大学人文科学研究所公開文化講座

シェイクスピアと日本

日本は現在、シェイクスピア上演大国と言えます。1年のほとんどの時期、シェイクスピアの上演を眼にすることができるのです。しかし、この活況も一朝一夕で発生したわけではありません。明治以降の近代化の中で、さまざまな試行錯誤の末成立したものなのです。そこにはさまざまな問題が立ちはだかりました。いかにして言語の壁を越えるのか。いかにしてそれにふさわしい演技を確立するのか。近代以前の劇作家の世界をいかにして近代以後の時代に適合させるのか。そして、いかにして観客を喜ばせる公演を成立させるのか―。こうした多くの壁を乗り越える過程は、それ自体が興味深いものであり、それ自体多くの思索の源となることでしょう。シェイクスピアを、英語の世界、英文学、英国舞台の文脈から解き放って、土壌も風土もまったく異なる「日本と言う異国の土地」に移植する行為、そのスリルを、このシンポジウムの中で考察していきたいと思います。（企画者：明治大学文学部准教授　井上 優）

第一部　近代日本とシェイクスピア

「翻案と翻訳の間―明治日本の異文化受容」

神山　彰（明治大学文学部教授）

明治期の異文化受容は翻案に始まります。それは理解不足ではなく、通念が違っていただけなのです。そこでは「内面」は問題になりません。有名なハムレットの独白が、なぜカットされ続け、いかにして可能になったか―その過程を中心に考えてみます。

「シェイクスピア・福田恆存・その翻訳」

福田　逸（明治大学商学部教授／演出家・翻訳家）

明治以来のシェイクスピア劇移入の過程において、福田恆存の翻訳・演出が日本の演劇界にもたらした意味と意義を振り返ると共に、恆存がシェイクスピアのみならず、様々の翻訳にいかなる態度で臨んだのか考察します。

第二部　現代日本におけるシェイクスピア

「現代日本におけるシェイクスピア上演 ―蜷川幸雄、あるいは日本人がシェイクスピアを上演するということ」

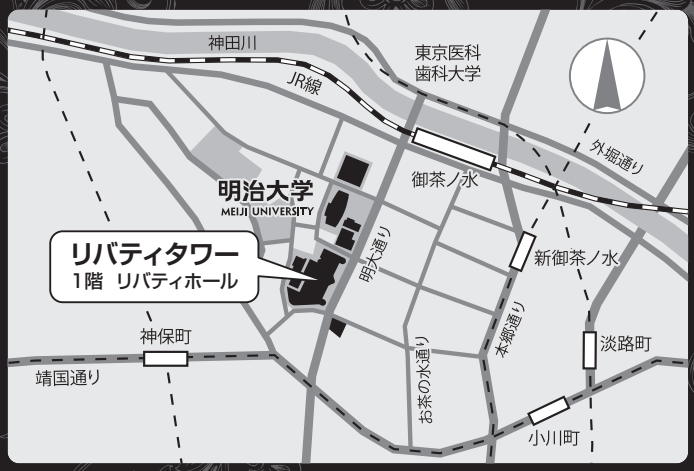
野田　学（明治大学文学部教授）

日本におけるシェイクスピア上演は、常に日本人と西洋文化との様々な関係のあり方を示してきました。本講演では、特に蜷川幸雄のシェイクスピア演出に着目して、日本人がシェイクスピアという西洋の「古典」を上演する際に生じる間文化意識について考えます。

「私のシェイクスピア料理法」

青木　豪（劇作家・演出家／明治大学文学部兼任講師）

これまで私は、二本のシェイクスピア作品を演出し、三本の翻案作品を書き下ろし、一本の上演台本を作成しました。その時々に感じたこと、日本語で日本でシェイクスピアを上演することについてなどをお話させて頂きます。



受講料・申し込みについて

- **受講料：無 料**
- **申　込：不 要**（当日、直接会場へお越しください。）

交通のご案内

■JR中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅　下車徒歩3分
■東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅　下車徒歩5分
■都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅　下車徒歩5分